

北アルプス：常念岳

- ◆日程 2022年4月2日(土)～3日(日)
 ◆メンバー L：SD、OT、KS

当初3月頭に企画頂くも、悪天候のため実行できなかった常念岳東尾根へリベンジ山行にいつてきました。

4月2日(土) 天候：晴れ

前泊し、松本駅 5:56 の電車に乗り、豊科駅からタクシーにて須砂渡ゲートへ。ゲートには既に積雪・凍結はなく、車も10台程度とまっており、我々以外にももう1組これから登るであろう2人組のパーティーも居りました。

準備を整えいざ、とりつきまで約30分の林道からスタートします。林道からも遠く常念岳が見え、天気も良く、今からそこへ向かうのかと思うと気持ちが高まりました。とりつきから入ってすぐは、かなりしっかりと整備されたような登山道でしたが、徐々に道の傾斜は険しくなり雪も少しずつ出てきて、急登が続きます。最初のピークとなる1955地点まで半分のあたりでアイゼンを装着、このあたりまでくると、藪も深くなってきましたが、SDさんが先陣を切って笹をかき分け、それを追って進んでいきます。ひたすらに登ると、常念岳がだんだんと近づいて来てテンションが上がります。道中ゲートで顔を合わせた二人組と度々すれ違いましたが、雪山になれていないような印象なのに、日帰りで計画をしているとのこと。大丈夫？無理せず…などとSDさんが優しく声をかけながら進みました。

12:30頃にはテント設営予定地に到着、森林限界を超えると、目の前に常念岳がそびえる素晴らしい景色でした！早速設営適地を探し、整地をしてテントを設営しました。それでもまだ13:30と時間はたっぷりあり、日差しもたっぷりで温かい！これは外でダラダラするしかないだろうと簡易の椅子を雪で作し、しばし絶景を見ながらのお酒と会話を楽しみました。

日が暮れると一気に体感温度は下がり、テントに入ります。途中、道中顔をあわせていた二人組の一人が戻ってきており、足がつつてのぼれなくなったので、一人で引き返し相方は山頂をめざしているとのこと。皆でラーメンを食し、二人の無事の下山を祈りながら明日に備えて眠りにつきました。

(記：KS)

CT：須砂渡ゲート 6:46 - とりつき 7:37 - 1955地点 11:55 - 2200地点付近 12:30



4月3日(日) 天候：晴れのち霧のち小雪のち雨

朝4:30に起床、前日寝る前の天気予報チェックでは、金曜日時点では朝の内は晴れる予報を出していたヤマテン予報が、朝から霧になっており、明日は景色は駄目かね…と、やや気落ちしての就寝でしたが、朝のトイレがてら外に出てみると、そこには星空が！良い方に予報が外

れました。朝食を終え外に出ると、下界は雲がひろがっているものの山の姿はしっかりと視認でき、綺麗な朝焼けも見ることができました。なんとか登頂まで天気が持ってほしい…と願いながらのスタートです。

テント場を出るとすぐに、雪原の急登に差し掛かります。これは下山時怖いかも…?とおもいながらも、一步一步のぼっていきました。雪はしっかりとアイゼンを効かせることのできる、歩きやすい状態でした。所々サラサラの雪もあり、まだまだ上の方は冬だと感じました。岩場も慎重に通過しながら進んでいきます。標高が高いためか、昨日の疲れが残っているのか、息があがりますが、それでも前方にそびえる常念岳と、時折ふりかえってみる素晴らし雲海に励まされながら登りました。

前常念に着く頃には高度感もあがり、山々の眺めも一層素晴らしいものになってきました。常念岳の山頂は霧にかくれたり姿をあらわしたりしています。稜線はやや風もつよく、登りはじめは暑かったですが、場所によっては少し体が冷えそうに感じました。

常念岳山頂に近づいていくと、なんと段々と山頂にかかった雲がとれていき、素晴らしい景色の中での登頂を果たすことが出来ました。同時に登っていたのは我々を含め3パーティーでしたが、口々に丁度晴れて良かったね!と喜びを分かち合いました。

一通り写真を撮って下山すると、天気は徐々に霧に包まれて行き、テント場に戻ったころにはあたりはガスに包まれていました。それでも霧をこえて日差しの暖かさが届き、暑いねーと感想を言いながらのテント撤収となりました(温度計で12度を記録)。テント撤収後の樹林帯はひんやりと冷たく、小雪もまってくる天気となり、お土産のように樹氷を見せてくれました。徐々に高度を下げると、雪は雨にかわりましたが、スプ濡れになることなく下山することが出来ました。
(記:KS)

CT: 2200 地点付近(テント設営地) 5:36 - 前常念 7:13 - 常念岳 8:07 - 2200 地点
付近(テント設営地) 10:15-10:45 - とりつき 13:15 - 須砂渡ゲート 13:55

